（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	樋口 一彦	所　属	人文社会学部　国際法政学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	共通教育科目として「憲法概論」、学部専門科目として、「法学概論」「講義国際法」「演習国際法Ⅰ」「基礎演習Ⅰ」「法学演習」、大学院科目として「国際法特論」「国際人権法特論」「国際人道法」を担当する。法学演習履修の3・4年次学生に対して必要な指導を行う。	0.35	共通教育科目として「憲法概論」、学部専門科目として、「法学概論」「講義国際法」「基礎演習Ⅰ」「法学演習IA・IIA」を担当した。前学期において法学演習履修の3・4年次学生に対して必要な指導を行った。
研究	0.30	国際人道法研究を継続する。	0.30	国際人道法研究を継続した。
社会貢献	0.00	教育、研究、および管理運営を行うことにより「社会貢献」を行う。従って、独自の「業務ウエイト」を置かない。	0.00	教育、研究、および管理運営を行うことにより「社会貢献」を行った。
管理運営	0.35	法学講座主任、教育委員会委員、URGCC法学学士教育プログラム委員、安全衛生委員会委員、動物実験委員会委員、グローバル教育支援機構科学教育事業支援専門委員会委員、大学評価IRマネジメント委員、などの任務を遂行する。	0.35	法学講座主任、教育委員会委員、URGCC法学学士教育プログラム委員、安全衛生委員会委員、動物実験委員会委員、グローバル教育支援機構科学教育事業支援専門委員会委員、の任務を遂行した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	戸谷　義治	所　属	人文社会学部　国際法政学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	共通科目として憲法概論、専門科目として基礎演習、労働法（基礎・応用）、法学演習、及び外書講読を開講する。また、海外研修としてハワイ研修及び台湾研修を実施することとし、研修の充実と学生の負担軽減のため外部資金の獲得を目指す。講座等で実施されるFDに参加する。進路指導については、学生からの相談に対応するほか、大学院進学を希望する学生を支援する。	0.30	予定された授業を開講した。予定された海外研修も実施し、研修充実と学生負担軽減のため日本学生支援機構短期留学奨学金（ハワイ研修・台湾研修）及び学内重点施策推進枠事業「学外学修プログラム」推進経費（台湾研修）を獲得した。学部・講座等のFD会議に参加した。学生からの進路相談に応じるとともに大学院進学希望者（研究大学院1、法科大学院2）の進学指導（論文、英語）を行った（幸いにして全員合格した）。
研究	0.30	現在代表者として採択されている科研費の最終年度となるため、研究のとりまとめと成果公表を行うとともに、研究分担者となっている研究を推進する。また、次年度以降の科研費獲得に向けて準備・申請を行う。	0.30	科研費（代表者1、分担者3）により研究を進め、フランス、カナダ、台湾での現地調査などにより進展が見られるとともに、成果公表を行うことができた（国内学会等報告5、論文4、書籍（共著）2）。科研費のほか、民間財団の研究費獲得に向けた準備・申請を進めた。
社会貢献	0.20	学校教員免許更新講習の講師を担当するほか、必要に応じて講演などを行う。また、実務家を交えた研究会を実施し、研究成果の普及を図る。	0.20	学校教員免許更新講習や、ワークルール検定協会主催労働法講習などの教員・社会人向け講演などを実施した。実務家を交えた研究会を複数回開催し、自らも報告するとともに、国内外から研究者や実務家を招聘して報告を求め、研究と実務の交流を促進した。
管理運営	0.20	割り当てられた委員の業務を行う。	0.20	全学委員を含む割り当てられた複数の委員会委員を担当した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	寺石　悦章	所　属	人文社会学部　人間社会学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.60	新たな授業内容の準備はもちろんだが、前年度から継続している授業についても学生の関心やニーズを考慮し、よりわかりやすく効果的な授業にするため、十分な時間をかけて準備を行う。また年次指導教員として担当学年の学生たちに、またゼミの指導教員としてゼミの学生たちに対し、就職指導・進路指導等を積極的に行う。	0.60	授業については、学生の関心やニーズを考慮し、よりわかりやすく効果的な授業にするため、十分な時間をかけて準備を行うことができた。また年次指導教員として担当学年の学生たちに、またゼミの指導教員としてゼミの学生たちに対し、就職指導・進路指導等を積極的に行った。
研究	0.20	研究論文を執筆する。	0.20	研究論文を1本執筆した。
社会貢献	0.15	教員免許更新講習の講座を琉大・石垣・宮古で行う。また地域の方々のニーズに応じて毎週行っている勉強会や、年に数回行っている研究会を継続する。	0.15	教員免許更新講習の講座を琉大・石垣・宮古で行った。また地域の方々のニーズに応じて毎週行っている勉強会や、年に数回行っている研究会を継続した。
管理運営	0.05	委員会などの業務を適切に遂行する。	0.05	委員会などの業務を適切に遂行した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成３１年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	伊藤　義徳	所　属	人文社会学部　人間社会学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成３１年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成３１年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	教育学部心理臨床科学コース最後の卒業生を出す年度であり，しっかり送り出す。 法文学部，人文社会学部の講義が本格的に始まる年であり，魅力的な授業を展開する。	0.20	「心の科学」「認知療法」等の授業でwebクラスを取り入れたことで，効率よく，またインタラクティブな授業を展開した。「心の科学」においては，障がい学生支援室を通して支援要請のあった学生に対して，意見を聞きながら可能な限り配慮を行った。学生の満足度も高く，終了後に個別に御礼に訪れてくれた。 心理臨床科学コースにおける「心理臨床実習」では，附属中学校と密に連携しながら，14名の生徒に対して質の高い学習支援活動を展開した。 ゼミの4名の学生を引率して海外研修を実施し（ドイツ8日間），進路，就職を決定する大きな一助となった。
研究	0.20	科研費研究4年中2年目であり，具体的に研究を進める。 論文投稿2本，学会発表3件予定。	0.20	科研費の課題として，予定していた3つの研究を実施した。また，科研費分担研究の研究を遂行した。 2019年中に，論文4編，著書（分担執筆）2編，学会発表3件を行った。その他，学会シンポジウムを2件行った。
社会貢献	0.30	日本感情心理学会，日本マインドフルネス学会の理事としての職責を全うする。 日本心理学会，日本マインドフルネス学会，日本認知・行動療法学会の編集委員会委員の職責を全うする。 沖縄県公認心理師協会副会長としての職責を全うする。 宜野湾市，沖縄市，名護市のいじめ問題専門委員会委員の職責を全うする。 沖縄県自殺対策連絡協議会委員の職責を全うする。 その他，依頼のある研修講師活動を全うする。	0.30	日本感情心理学会，日本マインドフルネス学会の理事，日本認知・行動療法学会代議員としての職責を全うした。 日本心理学会，日本マインドフルネス学会，日本認知・行動療法学会の編集委員会委員の職責を全うした。 沖縄県公認心理師協会副会長，宜野湾市，沖縄市，名護市のいじめ問題専門委員会委員， 及び沖縄県自殺対策連絡協議会委員等の職責を全うした。 内閣官房人事局，沖縄県教育委員会，島尻教育事務所，うるま市役所，沖縄電力(株)等から依頼された研修講師を全うした。
管理運営	0.30	ハラスメント相談支援センター副センター長の職責を全うする。 学部代議会，広報委員会委員の職責を全うする。	0.30	全学委員として，ハラスメント相談支援センター副センター長，ハラスメント防止対策委員会委員，ハラスメント防止対策委員会広報・研修委員会委員の任を全うした。また，研究推進会議委員，さらには本委員会内の学内競争資金に関わる評価WG委員の任を全うした。 学部委員として，広報委員会委員(人文社会学部)，教育実習委員会(教育学部)の任を全うした。 教育学部心理臨床科学コース最終年と言うことで，過去20年の学生や関連教員を招いたフェアウェルパーティを企画し，その発起人として全体の運営・統括にあたっている。 学部推薦入試IIの問題作成委員，試験監督を行った。大学院後期入試の問題点検委員を行う。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	本村　真	所　属	人文社会学部　人間社会学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学部教育においては専門科目（児童福祉論、ソーシャルワーク論、地域福祉演習、卒業論文）を担当する。各講義やゼミにおいて、学生の主体的参加を促す方法やコミュニケーションスキル等の専門スキルを習得させる方法の向上を目指す。大学院においては今年度入学した児童・家族福祉を主たるテーマとする院生への研究支援を講義やゼミにおいて行い、修士論文の執筆指導も併せて行う。	0.30	学部教育においては専門科目（児童福祉論、ソーシャルワーク論、地域福祉演習、卒業論文）を担当し、各講義やゼミにおいて個々の学生の主体的参加を促すディスカッションやレポート形式を取り入れることで、コミュニケーションスキルの向上もはかった。大学院においては今年度入学した児童・家族福祉を主たるテーマとする院生への研究指導を行った。加えて、キャリア教育センター長として複数の関連科目の運営・実施にたずさわった。
研究	0.20	島嶼地域の児童養護施設における支援方法（職員のストレスマネジメントを含む）に関する研究を推進する。加えて、島嶼コミュニティにおける実践研究の等の推進をはかる。	0.20	島嶼コミュニティにおける実践に関する情報集を行うと共に、島嶼・辺境地域のコミュニティ維持に関する書籍（『辺境コミュニティの維持』）の発刊に編著者としてした関わった。また、11月に那覇市で開催された、日本乳幼児精神保健学会の実践報告（「社会の支援を必要とする子どもたち」）の座長および、12月に宜野湾市で開催された第60回日本児童青年精神医学会におけるシンポジウム（「沖縄県における「子どもの貧困」の現状と支援の実際」）のコーディネーター・演者を務めた。
社会貢献	0.20	沖縄県の子どもの貧困に関連する会議等への参加や、児童養護施設等におけるスーパービジョンの実施、市町村にける各種支援活動への参加、子どもの居場所学生ボランティアセンター運営（センター長）等を通して、地域社会の課題解決のためのシステム作りに寄与する。	0.20	市町村にける要保護児童対策地域協議会などにスーパーバイザーとして関わり専門的知識の提供を行うと共に、子どもの居場所学生ボランティアセンター運営（センター長）や、内閣府および沖縄県の振興審議会委員活動を等を通して、地域社会の課題解決のためのシステム作りにむけた活動において専門的知識の提供を行った。
管理運営	0.30	全学においては人文社会科学系の大学院改組に関する取り組みを継続し、キャリア教育センター長の任務を遂行する。加えて、大学コンソーシアムにおいて設置されている「子どもの居場所学生ボランティアセンター」の運営にも関与する。学部内においては人間社会学科長として学科運営に関わると共に、その他の委員会のとりまとめも行う。	0.30	全学においてはキャリア教育センター長として通常業務における管理者業務にたずさわると共に、新たな県外におけるインターンシップの導入に尽力した。加えて、人文社会科学系の大学院改組に関する取り組みを継続し、大学コンソーシアムにおいて設置されている「子どもの居場所学生ボランティアセンター」の運営にも関与した。学部内においては人間社会学科長として学部・学科運営に関わった。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	鈴木規之	所　属	人文社会学部　人間社会学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.50	国際比較社会学Ⅰ・Ⅱ、社会学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、（以上学部）、国際社会学特論・演習（修士）、アジア社会学特論・演習（博士）等、3つのレベルの講義・演習を滞りなく行う。とくに、修士2年次、博士課程3年次の留学生に対する指導を十分に行う。 さらに、学部のゼミ受講生、修士課程の学生、博士課程の学生に対する進路指導を行う。	0.50	国際比較社会学Ⅰ・Ⅱ、社会学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、（以上学部）、国際社会学特論・演習（修士）、アジア社会学特論・演習（博士）等、3つのレベルの講義・演習を滞りなく行う。とくに、修士2年次、博士課程3年次の留学生に対する指導を十分に行って、修了予定の4名を主指導教員として予定通りに修了させた。 さらに、学部のゼミ受講生、修士課程の学生、博士課程の学生に対する進路指導を行った。
研究	0.20	平成30年度に採択された文科省科研費（C）「ホスト社会沖縄と日系人―ラテン文化資本の架橋性―」の研究を行う。また、平成26年度まで研究代表者をつとめた文科省科研費（B）海外「東北タイの開発と市民社会形成―公共圏・社会関係資本・プラチャーコム―」の研究成果を国際学会で発表し、その成果を発展させて、平成32年度からの国際共同研究(B)などの新規の科研費などの獲得をめざす。	0.20	平成30年度に採択された文科省科研費（C）「ホスト社会沖縄と日系人―ラテン文化資本の架橋性―」の研究を行った。また、平成26年度まで研究代表者をつとめた文科省科研費（B）海外「東北タイの開発と市民社会形成―公共圏・社会関係資本・プラチャーコム―」の研究成果の一部を国際学会で発表した。その成果を発展させて、平成32年度からの国際共同研究(B)の獲得をめざしたが、不採択Aであった。
社会貢献	0.05	タイ・ラオスに対する国際貢献を行う。タイについては、2つの大学（コンケン大学、ウドンタニラジャパット大学）の客員教授としても国際貢献を行う。また、タイ・ラオスについては、留学生の受入れ、派遣についてプログラムリーダーとしての役割を果たす。	0.05	タイ・ラオスに対する国際貢献を行う。タイについては、2つの大学（コンケン大学、ウドンタニラジャパット大学）の客員教授としても国際貢献を行い、2大学での講演・講義を行い、セミナーを開催した。また、タイ・ラオスについては、留学生の受入れ、派遣についてプログラムリーダーとしての役割を果たした。
管理運営	0.25	法文学部人間科学科長、人文社会学部国際交流委員長、大学院人間科学専攻主任および人間社会領域主任として学部内の運営業務を行う。また、全学の国際教育専門委員会および国際連携担当者連絡会委員、大学院教育プログラム委員として管理運営に参加する。	0.25	法文学部人間科学科長、人文社会学部国際交流委員長、大学院人間科学専攻主任および人間社会領域主任として学部内の運営業務を行った。また、全学の国際教育専門委員会および国際連携担当者連絡会委員、大学院教育プログラム委員として管理運営に参加した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	鈴木　良	所　属	人文社会学部　人間社会学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	・複眼的な視点を養成するため社会福祉学と共に、人文社会科学の視点から授業を行う ・生活問題解決力を養成するため、生活問題に関わる具体的事例を検討する授業を行う ・講義授業でもグループディスカッションや学生の発表を取り入れ、対話型の授業を行う。 ・近年の日本及び海外の調査研究の成果を授業内容に反映させる。 ・実習・演習において学生の個々の目標到達に向けて個別指導を重視する。 ・社会福祉士国家試験対策についての問い合わせに対しては積極的に対応する。 ・社会福祉現場での就職相談があれば丁寧に対応する。	0.40	・社会福祉関連制度の諸課題について社会学や障害学など幅広い見地からの解説と議論を行った。 ・社会福祉士演習・実習指導科目だけではなく講義科目においても事例のアセスメントを重視した。 ・演習科目だけでなく講義科目でも学生間の議論と学生による発表を取り入れ対話型の授業を行った。 ・研究の成果である障害者の地域生活や相談援助の実際を紹介し、学生と共に検討した。 ・演習・実習では個々の学生の特徴や関心に応じて自らの問題関心を掘り下げられるように助言した。 ・社会福祉士国家試験に向けて適宜相談に応じたりして、積極的に対応した。 ・福祉事務所でのケースワークやNPO法人での仕事のメリット・デメリットについて学生に説明をした。 ・障害学生支援に従事した。
研究	0.30	・日本社会福祉学会あるいは障害学会へ査読付き論文の投稿 ・日本社会福祉学会あるいは障害学会の学会誌の査読委員の継続 ・北海道における脱施設化に関わる調査研究の実施 ・科学研究費助成事業(基盤研究B)の申請。 ・障害学会の研究大会における講演及びシンポジウムへの登壇	0.30	・日本社会福祉学会の学会誌において査読付き論文の掲載が決定した。 ・日本社会福祉学会及び障害学会の学会誌の査読委員として論文の査読を行った。 ・北海道における施設解体の調査を実施した。 ・障害学研究会九州沖縄部会熊本研究集会において基調講演をした。 ・第16回障害学会大会シンポジウムにおいてシンポジストとして発表した。
社会貢献	0.10	・自立生活センターイルカとの協働による研修会の開催 ・沖縄県社会福祉法人わかたけ福祉会の評議員として活動 ・NGO地に平和のメンバーとしてニュースレターへの連載 ・沖縄県社会福祉協議会の評議員などとして活動 ・京都の自立生活センターとの協働による勉強会の開催	0.10	・自立生活センターイルカと協働して、県民への障害者の権利についての啓発活動を行った。 ・NGO地に平和のメンバーとしてニュースレターにおいて沖縄や福祉のテーマを中心に掲載を継続した。 ・沖縄県社会福祉協議会の評議員及び日常生活自立支援事業審査会委員として活動した。 ・沖縄県社会福祉法人わかたけ福祉会の評議員として活動した。 ・第35回九州ブロック肢体不自由児者父母の会沖縄大会において基調講演をした。 ・全国障害者在宅生活支援事業者連絡会名古屋支部会の連続学習会にて基調講演をした。
管理運営	0.20	・全学及び学部内の各種委員会の委員としての役割を適切に遂行する。とりわけ障害学生支援室における兼務教員として学内における障害学生支援の推進のために尽力する ・講座会議や教授会など参加が求めれる会議は可能な限り出席し大学運営に貢献する。 ・所定の入試関連業務を遂行する。 ・社会福祉士実習関連業務を適切に遂行する。	0.20	・全学・学部内の各種委員会の委員、及び障害学生支援室の兼務教員として活動を積極的に行った。 ・専攻会議や教授会など参加が求めれる会議は可能な限り出席し大学運営に貢献した。 ・所定の入試関連業務を遂行した。とりわけ一般入試前期日程の問題作成委員長を務めた。 ・厚生労働省への変更届の提出など社会福祉士実習関連業務を適切に遂行した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	野入直美	所　属	人文社会学部　人間社会科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	基礎演習Ⅲ・社会学実習Ⅰ・Ⅱでは、改元に伴ってこれからの時代に「＃残したい沖縄」のSNS投稿分析を、テレビ番組制作とのコラボで行い、学生の能動的なアクション・リサーチをうながす。	0.30	基礎演習Ⅲ・社会学実習Ⅰ・Ⅱでは、改元に伴ってこれからの時代に「＃残したい沖縄」のSNS投稿分析を、テレビ番組制作とのコラボで行い、学生の能動的なアクション・リサーチをうながした。
研究	0.40	科研（B）研究代表者として共同研究を統括する。国際日本文化センター（日文研）共同研究者としての職責を果たす。	0.30	科研（B）研究代表者として共同研究を統括した。国際日本文化センター（日文研）共同研究者としての職責を果たした。
社会貢献	0.20	NPOアメラジアンスクール・イン・オキナワの理事として、アメラジアンの子どもの教育権保障を支援する。沖縄県による補助事業を統括する。糸満市男女共同参画会議委員をつとめる。	0.20	NPOアメラジアンスクール・イン・オキナワの理事として、アメラジアンの子どもの教育権保障を支援した。沖縄県による補助事業を統括した。糸満市男女共同参画会議委員をつとめた。
管理運営	0.10	教員養成委員、ジェンダー推進室室員としての職責を果たす。	0.20	教員養成委員、ジェンダー推進室室員としての職責を果たした。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	高橋　そよ		所　属	人文社会学部　琉球アジア文化学科	職　名	准教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.40	・授業科目14コマを担当し、学術的な基礎的知識を習得できる教育サービスを提供する。 ・担当する学生の卒業論文作成に対して、単位取得可能な質を担保できるよう、適切な教育指導を行う。 ・特に、1年生の基礎演習にて、担当する留学生（ベトナム）が本学においてスムースな留学生活を行えるよう学生支援を行う。 ・他学部や他大学・研究機関との共同研究や研究会の場に積極的に学生も参加できる機会を設ける。 ・野外実習を通して、地域から学ぶ教育を提供する。		0.55	・授業科目14コマを担当し、学術的な基礎的知識を習得できる教育サービスを提供した。 ・担当する学生の卒業論文作成に対して、単位取得可能な質を担保できるよう、適切な教育指導を行った。 ・特に、1年生の基礎演習にて、担当する留学生（ベトナム）が本学においてスムースな留学生活を行えるよう学生支援を行った。 ・他学部や他大学・研究機関との共同研究や研究会の場に積極的に学生も参加できる機会を設けた（国立歴史民俗博物館研究集会「総合資料学の創出」7/6-7）。 ・野外実習を通して、地域から学ぶ教育を提供した。 （目標以外に実施したこと） ・学内の2019（令和元）年度大学教育改善等経費に採択され、地域文化・文化財の記録や資料レスキューなどを地域の方々とともに継続的に教育プログラムとして実践する先進事例として愛媛大学を訪問するなど民俗学プログラムの改善と教材開発に取り組んだ（地域から学ぶ琉球民俗学アクションプログラムの試み、支援額 145千円）。 ・共同研究者による話題提供に学生も参加し、先端研究を理解する機会を積極的に設けた（人文情報学：国立歴史民俗博物館 後藤真氏、琉球弧の人類史：県立埋蔵文化財センター、片桐千秋氏、宮古苧麻積み保存会：岩本大輔氏） ・2019年10月から中国からの留学生の指導教員となり、生活や授業の相談・指導を行なった（短期交換留学プログラム） ・聴覚障害のある学生の野外調査に際し、本人の要望の聞き取りや、受け入れる地域の方への協力依頼・説明など、実習前の調整配慮を慎重に行なった。 ・2019年12月、大学院指導教員資格審査を受け、承認された。 （自己点検） 着任初年度のため、予想以上に授業準備に追われて、教育・学生支援が業務ウェイトの半数以上を占めた。

研究	0.40	・今年度は副代表を務める超学際的研究プロジェクト「水の環でつなげる南の島の暮らし」（JST科学技術コミュニケーション推進事業）が最終年度となるため、市民とともに「島と水」にまつわる地域課題を解決するための協働をより強化し、研究成果をサイエンスアゴラ（11月、お台場）で公開する。また、研究代表として採択された自然保護助成基金特定テーマ助成「サンゴ礁保全をめぐる地域課題」と国立歴史民俗博物館奨励研究「サンゴ礁海域における漁具の資料学的検討と地域展開」を実施する。 ・九州大学菅浩伸教授を代表とする科研費基盤(S)「浅海底地形学を基にした沿岸域の先進的学際研究－三次元海底地形で開くパラダイム－」に研究分担者として参画し、八重山のサンゴ礁資源利用の実態調査を実施する。 ・学会口頭発表2本、論文投稿2本（査読あり）の予定。 ・科研費基盤（C)のみならず、民間研究助成にも積極的に申請する。 ・学部や大学・研究機関を超えた研究交流を積極的に行い、研究者ネットワークを構築する。	0.30	・副代表を務める超学際的研究プロジェクト「水の環でつなげる南の島の暮らし」（JST科学技術コミュニケーション推進事業）の最終年度して、研究成果を日本最大の科学イベントサイエンスアゴラ（11月、お台場）で公開した。また、特別講演を依頼され、プロジェクト紹介を行なった。最終ヒアリングでは、A評価を受けた。 ・研究代表として採択された自然保護助成基金特定テーマ助成「サンゴ礁保全をめぐる地域課題」と国立歴史民俗博物館奨励研究「サンゴ礁海域における漁具の資料学的検討と地域展開」を実施した。 ・九州大学菅浩伸教授を代表とする科研費基盤(S)「浅海底地形学を基にした沿岸域の先進的学際研究－三次元海底地形で開くパラダイム－」に研究分担者として参画し、八重山のサンゴ礁資源利用の実態調査を実施した。研究成果を2020年1月の研究会で発表した。 ・学会等口頭発表：9本（5本：招待講演、2本：コロナ延期）、論文投稿：1本 ・2019年11月、JST-RISTEXに新規事業「「SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム(SOLVE for SDGs)」に採択された（副代表 約3,000万円/年間/3年間）。 ・2020年3月、総合地球環境学研究所FS研究に採択（研究分担者） ・科研費基盤変革（A）：研究分担者、科研費基盤（S):研究分担者、科研費基盤（C）：研究代表者に申請した。 ・学部や大学・研究機関を超えた研究交流を積極的に行い、研究者ネットワークを構築した。 （自己点検） 予想以上に教育・学生支援の業務ウェイトが占めたため、新たな研究成果を論文としてまとめる時間を取れなかった。今後は新任教員のスタートアップ支援として、授業負担の軽減などの研究力向上（若手研究者育成）支援制度が、学部としてもあって良いのではと考える。しかしこれまで副代表として関わってきた学際的研究プロジェクトが大きな評価を受け、県内外のシンポジウム等への招聘、2本の大型外部資金の獲得、公共政策への提言採用、新たな研究ネットワークを広げることができたことは大きな成果だといえるだろう。次年度は、個人の研究としても展開できるよう、時間と体力の管理に努めたい。次年度は8月にヨーロッパで開催される国際学会で2本発表予定である。また、国連のプログラムMonitoring the SDGs indicators, SDGs, data sources, Tier 1 and Tier 2 SDG indicators, theAsia-Pacific Small Island Developing States (SIDS)に参加予定である。
社会貢献	0.10	・宮古島市史編纂委員会調査員の委嘱を受け、調査・原稿の執筆を行う。 ・伊良部漁協の依頼を受け、伝統的漁法の文化継承に向けた教育教材作成の支援を行う。 ・「水の環でつなげる南の島の暮らし」（JST科学技術コミュニケーション推進事業）の一環として、多良間小学校5年生を対象に総合学習の授業を提供する。 ・JSTより委嘱を受けて、民俗文化から見たサイエンス記事をJSTサイエンスポータルに年3回寄稿する。	0.05	・宮古島市史編纂委員会調査員の委嘱を受け、調査・原稿の執筆を行なった。 ・伊良部漁協の伝統的漁法の文化継承に向けた教育教材作成の支援を行なった。 ・「水の環でつなげる南の島の暮らし」（JST科学技術コミュニケーション推進事業）の一環として総合学習の授業提供予定だったがコロナの影響を受け、次年度以降に延期。教員との打ち合わせのみ実施した。 ・大学業務多忙のため、JSTサイエンライターを辞退した。 （目標以外に実施したこと） ・招待講演 （自己点検） 予想以上に教育・学生支援の業務ウェイトが占めたため、講演しかできなかった （その他） ・沖縄県環境部環境政策課より環境影響評価審査会委員の打診があったが、大学業務多忙のためお断りをした。 ・県内の他大学とフリースクールから非常勤講師「民俗学」の依頼があったが、大学業務多忙のためお断りをした。
管理運営	0.10	・学科運営に積極的に参加する。 ・学科内の業務として紀要編集を担当する。	0.10	・学科運営に積極的に参加した。 ・学科内の業務として紀要編集を担当した。 （目標以外に実施したこと） ・「委員会委員」 ・オープンキャンパスでの模擬授業 ・高校訪問（学科紹介、2校）
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください （プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　　学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成３１年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	中村　春菜	所　属	人文社会学部　琉球アジア文化学科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成３１年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成３１年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	（1）共通教育4コマ、学部8コマ、オムニバス授業2回を担当する。 （2）中城村内にて野外調査を実施し、学生の自発的且基礎的な調査研究能力を高める。 （3）1年次の年次指導教員としてサポートする。 （4）卒業論文の指導にあたる。 （5）留学希望者に情報提供を行う。 （6）中国語スピーチ大会参加希望者への指導と助言を行う。 （7）海外研修にて学生の引率をする。	0.30	（1）達成できた。 （2）達成できた。中城村久場と伊舎堂、当間にて聞き取り調査及び文字起こしの体験をすることで調査能力及びまとめる能力の向上を図ることができた。 （3）達成できた。二度の懇談会の実施、就学援助制度活用の面談実施、留学生の授業料免除申請等行った。 （4）達成できた。4名の卒業生の論文指導のみならず、口頭発表の技術指導も行った。 （5）（7）と関連するが、留学を考えていなかった学生に留学情報を提供することで、台湾への交換留学を決意させる後押しができた。 （6）達成できた。JAL主催「2019年JAL中国語スピーチコンテスト〔沖縄大会〕」にて直接指導した学生を優勝させることができた。また、台湾東呉大学と本学共催の中国語スピーチ大会に出場した学生へも指導と助言を行った。 （7）達成できた。８月下旬、台湾台中の逢甲大学にて２週間、35名の学生を引率し短期研修を行った。研修中は、積極的により効果的な学習プログラムにするため、積極的に逢甲大学と研修先の変更等を提言するなどした。
研究	0.30	（1）科研費基盤（B)「戦後沖縄社会の再建と『引揚げエリート』―台湾・満州の『専門職引揚者」を中心に」の研究分担者として文献調査及び聞き取り調査を行う。 （2）『沖縄戦を知る辞典』（2019年5月末刊行予定）の「疎開と引揚」「ハンセン病者」の項目を執筆する。 （3）沖縄戦を知る辞典』の出版記念シンポジウムの広報活動を行う、 （4）『沖縄市史　沖縄戦』（仮）（2019年9月初旬刊行予定）の「台湾疎開」の項目を執筆する。 （5）『南城市史　沖縄戦』（仮）（2020年3月末刊行予定）の「慰安所と慰安婦」「台湾引揚」の項目を執筆する。 （6）琉球大学琉球アジア社会文化研究会会誌『琉球アジア社会文化』に論文を投稿する。 （7）11月、中琉国際学術会議にて口頭発表および論文を投稿をする。 （8）若手研究スタートアップ事業へ応募する。	0.30	（1）達成できた。なお、2020年2月2日、上智大学と共催で「引揚を語る、引揚を考える」シンポジウムを本学で開催し、60名を超す参加者にお越しいただき、盛況のうちに幕を閉じた。 （2）達成できた。本著書は刊行1年未満で第五刷のベストセラーとなった。 （3）当該著書の出版記念シンポジウムにて、「執筆者からの一言」として登壇した。 （4）達成できた。「第2節　本土・台湾疎開」沖縄市総務部総務課　市史編集担当（編）『沖縄市史　第五巻　資料編4』戦争編―冊子版―（沖縄市役所、2019年9月） （5）達成できた。「第3章第1節　（3）台湾疎開」「第4章第4節　慰安所・「慰安婦」」『南城市の沖縄戦　資料編』専門委員会（編）『南城市の沖縄戦　資料編』（南城市教育委員会、2020年3月） （6）他の研究論文の執筆・投稿を優先したため、達成できなかった。 （7）達成できた。11月16日、中国海洋大学にて「終戦期の台湾における沖縄人子弟への教育について」というタイトルで口頭発表（中国語）を行った。論文も2020年3月には投稿予定（発刊時期未定、予稿集投稿済み）。 （8）達成できなかった。次年度は科研申請をする。 （9）年間計画当初にはなかったが、11月30日、台湾成功大学にて「沖縄咳ハンセン病患者の台湾経験―戦後、引揚、再収容を中心に」というタイトルで口頭発表（中国語）を行った。論文も2020年1月末日で投稿済み（発刊時期未定、予稿集投稿済み）。
社会貢献	0.20	（1）南城市史沖縄戦の専門委員を務める。 （2）中城村の沖縄戦編の専門委員を務める。 （3）沖縄オーラルヒストリー研究会の会長を務める。 （4）5月、オーラル・ヒストリー関係のシンポジウムを開催する。	0.20	（1）達成できた。本年度3月に『南城市の沖縄戦　資料編』が刊行された。 （2）オブザーバーとして委員会に参加した。また、『中城村の戦跡マップ』（A4見開き版）と『ガイドブック　中城村の戦争遺跡―沖縄戦の記憶と痕跡を歩く―』（本年度3月発刊）の編集に協力した。 （3）達成できた。5月、9月に定例研究会を開催した。 （4）9月に「見えない存在を、語る」と第して公開シンポジウムを開催した。学外からの参加者も多く、本研究会の意義を再確認する良いきっかけとなった。 （5）予定になかったが、10月4日、2019年度第2回研修会沖縄県地域史協議会にて「台湾引揚者の声に耳を傾けて～オーラル・ヒストリーという手法で編むこと」と題して講演した。 （6）予定になかったが、琉球大学附属図書館と中城村護佐丸記念資料図書館の合同イベントにて、11月10日、「引揚の地　久場崎～住民発信型の地域史を目指して～」と題して講演した。
管理運営	0.10	（1）1年次の年次指導を務める。 （2）琉球アジア学科の国際交流及び共同研究に関する委員会の委員を務める。	0.10	（1）達成できた。 （2）達成できた。
進路指導	0.10	（1）就職や進学等、サポートする。	0.10	（1）達成できた。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　□　学外公表に同意しない。　□　学内外公表に同意しない。